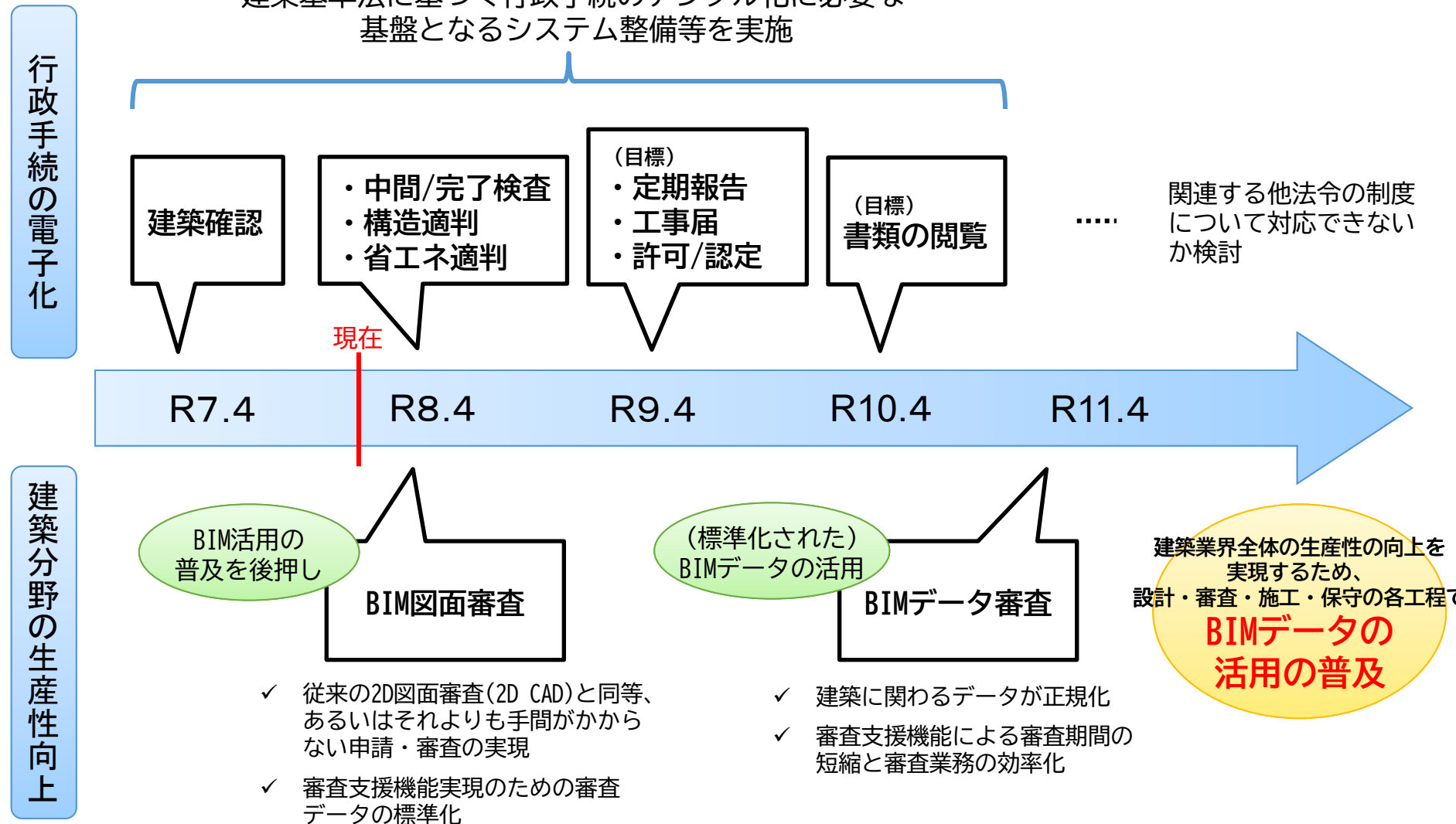


建築基準法の手続DXのための 制度改革について(報告)





書類の閲覧の業務改善に係る制度改正(規則第6条の3、第11条の3関係)

背景

各種概要書※について、特定行政庁は、当該建築物が滅失し又は除却されるまで閲覧に供さなければならないこととされており、特定行政庁による概要書の保管の負担は大きい。※概要書…建築計画概要書、築造計画概要書、定期調査報告概要書、定期検査報告概要書、全体計画概要書

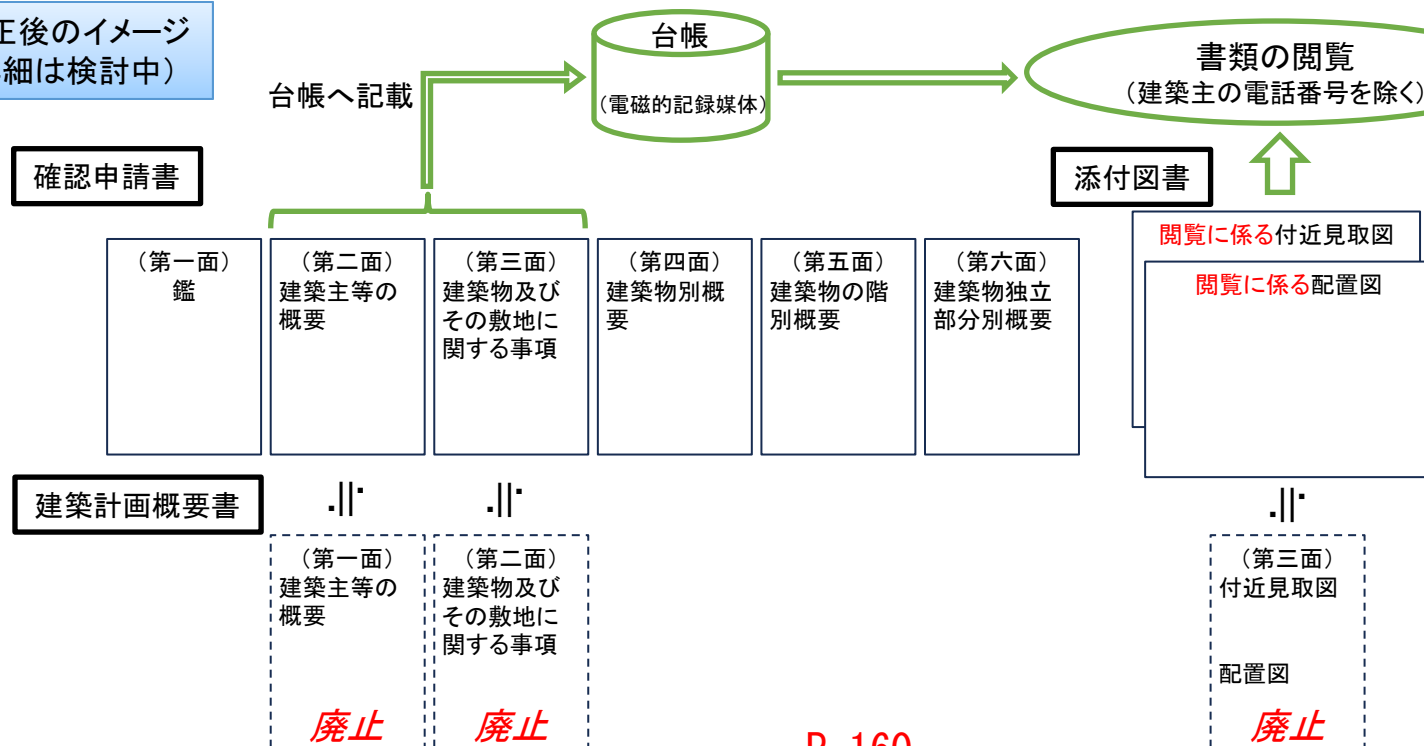
- ・各種概要書の記載事項は、確認申請書又は定期報告書にほぼ包含されている。
- ・概要書の記載事項は、特定行政庁が整備する台帳への記載事項でもあり、閲覧に当たっては、閲覧に供すべき事項を特定行政庁の台帳から抽出すれば足りる。

改正

「届出一度きり原則(ワンスオンリー)」を踏まえ、「行政手続の電子化」の一環として
 ①概要書を廃止し、②閲覧は台帳から必要な事項を抽出して表示又は提供する形とする方向で省令改正を検討。(令和10年4月施行目標)

特定行政庁における概要書の保管に係る負担を解消

改正後のイメージ
(詳細は検討中)



※過去の概要書については経過措置を講じ、従前どおり紙面の概要書を窓口で閲覧に供することを可能としつつも、データ化を推進する予定。

(参考)BIM図面審査の概要

- 申請者は、一定のルール（入出力基準）に従いBIMデータを作成し、PDF形式の図書とIFCデータを書き出す。
また、入出力基準に従っている旨の申告書や、その他必要な図書等を準備し、確認申請用CDEを使って確認申請を行う。
- 審査者は、確認申請用CDEにアップロードされた申請図書により審査※を行う。
※IFCデータは審査対象ではなく、形状理解のための参考として活用
- BIM図面審査による整合性の確認の省略について、告示（確認審査等に関する指針）の改正を予定（令和8年4月1日施行）。

○入出力基準

BIMデータから出力された図書の「形状」、「属性」又は「計算」に関して、図書の記載事項の整合性が確保されるための入出力の基準

入出力基準に基づき、BIMデータを作成

作成にあたり、参考テンプレートを使用することが可能（使用は必須ではない。）

BIMデータ（ネイティブデータ）

BIMデータからIFCデータ（①）とPDF形式の図書（②-1）を出力

一部の図書はCAD等で作成しPDF化（②-2）

（BIM由来でない図書）

入出力基準に従いBIMデータの作成等を行ったことをチェック（③）

申請者（設計者）

①②③を提出

確認申請用CDE※1（BIM図面審査用のCDE）

① IFCデータ※2

3D

審査対象外（参考扱い）

② PDF形式の図書（従来と同様の申請図書）

2D

整合性確認※3（一部を省略）

申告書による申告に基づき、一部の整合性確認を省略

審査対象

③ 申告書

入出力基準に従いBIMデータの作成等を行ったことについて、設計者が申告する書類

BIMビューアにより閲覧し、形状の把握・理解に利用

審査

審査者

- 整合性の確認
- 明示事項の審査
- 法適合の審査

整合性の確認を省略する範囲を確認

※1 ICBA確認申請用CDEの審査環境を標準とする

※2 BIMの共通ファイルフォーマット

※3 図書の複数個所に記載された審査に必要な情報のうち、形状・位置・数値が同一、あるいは文字情報の意味内容が同一であることを確認すること。